

RECYCLE

第9号
2003.3

とくろざわりサイクルニュース **NEWS**

編集・発行/リサイクル推進課 ☎998-9374
メールアドレス a9374@city.tokorozawa.saitama.jp

リサイクル館がオープンします

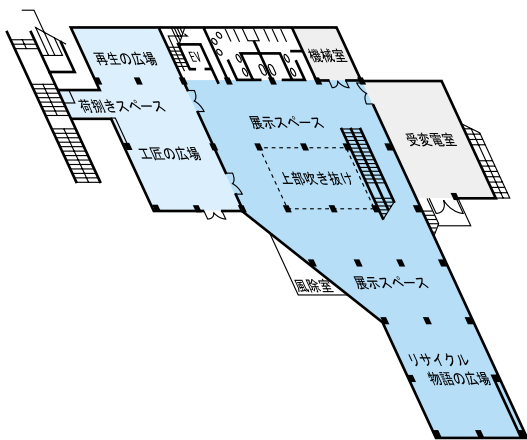
平成15年5月、(仮称)リサイクル館がオープンします。正式名称は議会の承認を経て決定されます。現在東所沢にある「リサイクルふれあい館」の機能が移転し、従来どおり再生家具の抽選頒布や不用品交換の登録窓口となります。さらに、各種リサイクル教室や環境学習の拠点として情報発信機能が新たに加わります。事業内容を市民や企業と一緒に育てる協働型の施設にしたいと考えています。はじめはヨチヨチ歩きですが、その成長を応援してください。

内容のご案内

- p1 ●リサイクル館がオープンします
- p2,3 ●100gのごみってどれくらい?
●1日100gのごみ減量
～ライフスタイルを見直そう
●これだけご協力いただきました
～古着古布・廃食用油の回収実績
- p4 ●「プラスチックごみ」の分別が少し変わります
●市民のみなさんから出された資源のゆくえ

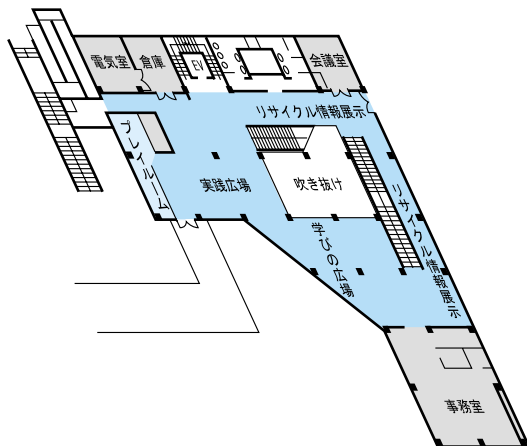
【交通】

- ・西武バス「所沢車検場前」下車約10分
- ・ところバス「中富南」下車約25分



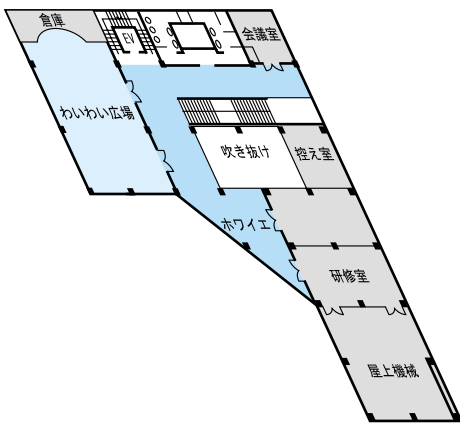
1 階

「工匠の広場」で知っている便利な家具・家電・自転車の修理の技を学ぼう。粗大ごみで出された家具の再生販売や不用品交換市も開催。「リサイクル物語の広場」ではエコ度満点の企画展示にご期待ください。



2 階

「学びの広場」でパネルや書籍、パソコンで知りたい情報を見つけよう! 「実践広場」ではリユース、リサイクルの講座を開催します。おもちゃの病院・裂き織り・リフォーム講座・包丁とぎ・傘修理。講師養成講座を受講してあなたも講師に!



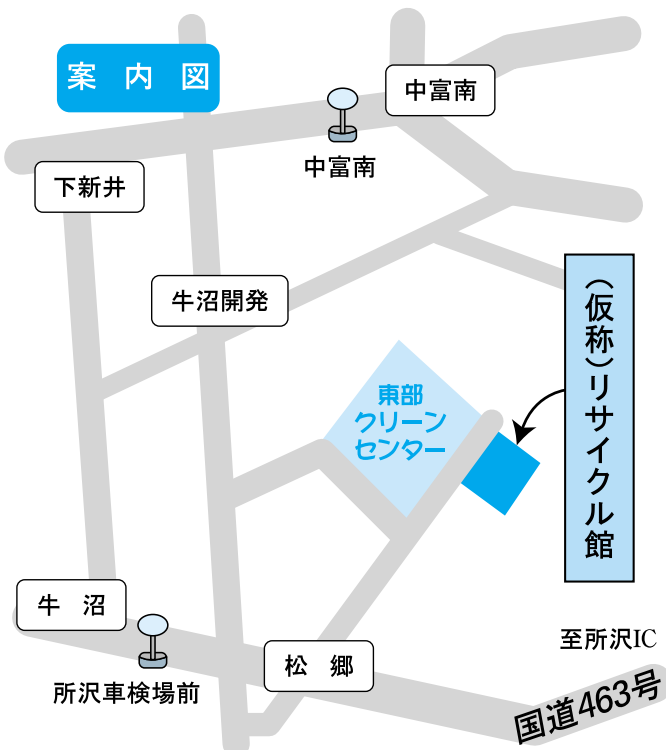
3 階

「わいわい広場」は環境とごみについてエコ度チェック! 見るたびに問題が違う映像クイズで子どもも大人も全問正解にチャレンジ! 「研修室」では生ごみリサイクル講習会や学校・企業のエコパワーを探る“エコ教室”に参加しよう!

(仮称)リサイクル館全景



案内図



(2)

ごみ100gってどれくらい?

下の表は身の回りにあるもの約100gの一例です。どうすればふだんの生活の中からこうしたごみを減らせるか考えてみましょう。

ごみを減らす基本原則①…ごみを家庭に持ち込まない

例えばレジ袋。少量のごみ出しにも使えますが、家の中にたまればごみになる…。それならいっそもらわない方がいい！日本チェーンストア協会では毎月5日を「ノーレジ袋の日」としてマイバッグキャンペーンを実施中。オリジナルバッグの販売や断った人への特典もあります。市でもエコバッグを作製し、市内各スーパー*などで好評発売中です。

例えば缶やペットボトル。容器類はごみの中でも大きな容積を占めています。お茶などの飲料類は買わずに自分でいれて飲みましょう。お勤めの方は水筒を職場に持参すれば、おこづかいが浮くかも！重いって？

そのとおりです。でも、自分の工夫で環境にやさしくなれるのってちょっとうれいと思いませんか？まずは週に1回から始めてみましょう。

*オリジナルエコバッグ取扱店：食鮮市・西友各店・さいたまコープ各店・ヤオコー各店・いなげや各店・ベルク・新所沢東口商店会・和ヶ原商店街・リサイクルふれあい館・市役所8階売店

- 牛乳パック3枚
- 食品トレイ20枚
- スチール缶2本
- タリ1回分の新聞紙
- 大学ノート1冊
- ペットボトル2本
- 小さな段ボール1箱
- Tシャツ1枚
- あさびな1本
- 紙袋2枚
- ポケットティッシュ10個
- タオル1枚と布きん1枚
- はっさくみかんの皮

ごみを減らす基本原則②…そのまま捨てずに再利用

例えばシャツやタオルなどの布類。所沢市では古着・古布の回収をしていますが、全てを資源化できるわけではありません。そこで布類は家庭での使いきりをお勧めします。針が使えない方でも大丈夫。ソース、ケチャップ、マヨネーズ、ドレッシングなど、食器の汚れを拭いてください。洗剤で洗うよりもこのほうが環境にやさしいんです。ハンカチ程度の大きさに切ってシンクのそばに置いておけば立派な有効利用です。手先の器用な方へのお知らせです。古着のリフォーム講座大好評実施中！年に数回開催します。詳しくはリサイクル推進課まで。

ごみを減らす基本原則③…資源は正しく分別

現代社会では、ごみを一切出さない暮らしはほとんど不可能といってしまうでしょう。でも、正しく分ければ資源として活かされて私たちのところに戻ってくるのです。集積所などでの8分別の回収も、今の施設や人員の中で最大限効率的に資源化するためのルールです。ごみは正しく出しましょう。8分別の他にも資源物が回収されていますので、ぜひご利用ください。

- ・古着・古布：春と秋の4回ずつ計8回、公民館や小学校などを会場として回収します。平成15年度の予定はもう少々お待ちください。
- ・廃食用油：月1回土曜日、公民館など26か所まで回収します。清掃事業所でも受け入れ時間中なら平日毎日お出しいただけます。
- ・牛乳パック：公民館や郵便局、児童館など市内44か所の公共施設で回収しています。その施設が開いている時間ならいつでもどうぞ。
- ・スーパーなどが行っているもの：牛乳パック、ペットボトル、食品トレイ、二次電池（ボタン電池やニッカド電池など）は各店舗の自主回収です。市で分別回収を行っていないものも扱っていますので、お買い物のついでにご利用ください。

出前講座や総合学習のお手伝いにつながります

もっとごみや環境のことについて知りたい、市の取り組みを教えてください…。そんな時にご利用ください。リサイクル推進課では、平成13年度には延べ19回約800人を対象にお手伝いをさせていただきました。今年度は1月実施分までで延べ15回約1,200人の実績があります。

地域の環境や暮らしは自分たちで良くしていかなければなりません。そのためには、社会の動きや行政の仕事を知っていることが大きな力になります。出前講座には環境以外でも多くのメニューがありますのでご活用できます。窓口は生涯学習センター（☎924-2954）です。総合学習では学校の要望に合わせて資料や市役所以外の問い合わせ先も紹介しています。リサイクル館で問題意識を刺激して、この制度もご利用ください。

1日100gのごみ減量!

所沢市では4月から東部クリーンセンターの新規稼働、容器包装プラスチックの分別収集、粗大ごみの有料化を開始し、そして5月には（仮称）リサイクル館がオープンします。市民のみなさんにはこれからも引き続きご協力とご理解をいただかなければなりません。ここでは、単にルールに従ってごみを出せばよいというのではなく、なぜ、こうしたごみの分別や、ごみを出さない工夫が必要なのかをお話します。

ごみ減量・リサイクルが必要な理由 その1 〜〜ごみの量・処理経費の増加〜〜

グラフ①はこの20年間のごみ量の、グラフ②は処理経費の変化を表しています。家庭などから出されるごみの排出量は総量で約2倍、1人1日あたり約1.4倍に増えていきます。平成2年というバブル期を境にしたグラフの上昇カーブの違いは、ライフスタイルの変化をうかがわせませす。量の増加に伴って処理経費も総額で約5.4倍、年間の1人あたりの処理経費は約2.8倍へと急増しました。

ごみ量以上に経費が増加したのは、分別が細分化し、品目ごとの収集や処分に経費がかかるためです。「経費の面だけからみれば全部燃やしてしまったほうが良い」と言われることもありますが、ごみの処理が経費面だけで割り切れないことは後で述べます。

紙類や空き缶類が資源化業者に売れるのとは逆に、ペットボトルの処理に費用を支払うことは意外と知られていません。再資源化費用として、収集した量の1%分を市が、99%分を飲料や容器のメーカーが1tあたり8万円以上負担します。私たちは税金からと同時に、代金としても処理費を支払っているのです。

商品の原料や特性を一番知っているメーカーが、その知識をもとに資源化技術を開発し、生産者の責任として廃棄されたときの費用を負担する仕組みが「〇〇リサイクル法」などを根拠としてつくられています。ごみの処理や資源化は今まで行政経費によって行なわれていましたが、ごみ処理が複雑化して費用がかさむものになり、税金だけではなく社会全体で資源化の費用を負担する仕組みが必要になったということでもあります。

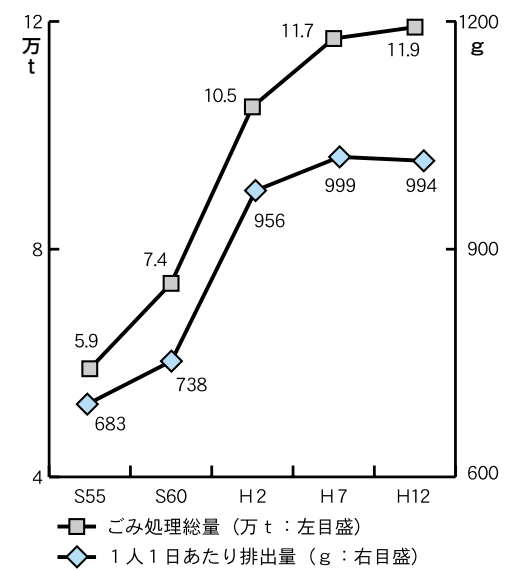
ごみ減量・リサイクルが必要な理由 その2 〜〜最終処分場のひっ迫〜〜

焼却灰や資源物を取った後の燃やさないごみなど、資源化されないものは処分場に埋め立てます。処分場の容量には限度があって、その全国平均を環境省が集計しています。

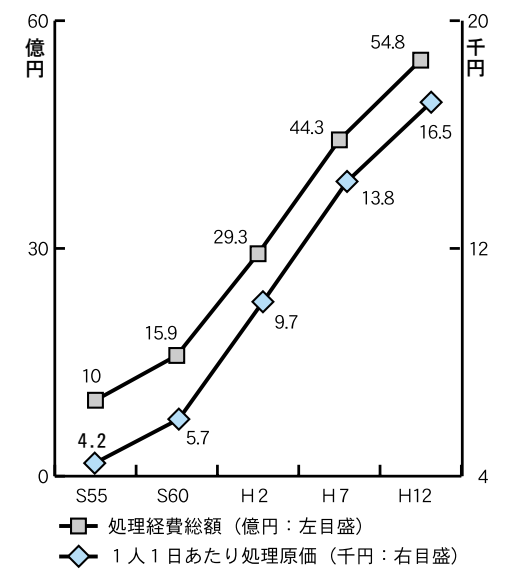
それによれば平成11年度時点で、家庭ごみなどの一般廃棄物の最終処分場はあと12.3年、事業にともなって工場などから出る産業廃棄物の最終処分場はあと3.7年分とされています。処分場を新しく造ることは年々難しくなってきており、造ることができたとしても、無限にごみを受け入れてくれるわけではありません。

首都圏のごみが首都圏外で最終処分される割合は約13%（平成11年度実績）といわれ、所沢市のごみも他の土地で処分しなければならない状況です。所沢市には北野に最終処分場がありますが、県営の処分場や県外の民間処分場にも埋め立てています。

グラフ①



グラフ②



ライフスタイルを見直そう！！

ごみ減量・リサイクルが必要な理由 その3 〜〜輸入大国日本〜〜

“食糧自給率”という言葉を知っていますか？消費する食糧を国産でまかなうことのできる割合のことをいいます。昭和40年度は全体の自給率が73%で、品目別にみるとイモ類、野菜、豚肉、鶏卵が100%、米が95%、魚介類は109%でした。平成11年度になると米と鶏卵は90%を超えていますがイモ類と野菜が83%に、魚介類が63%に、そして全体では39%へと激減しています。

次に“エネルギーの輸入依存度”という言葉は？原子力を輸入エネルギーに含めて計算すると、日本の平成11年の輸入依存度は96%、つまり4%しかエネルギーを自給できていません。エネルギー以外の資源では、鉄鉱石やアルミの鉱石であるボーキサイトは100%輸入されています。

日本は、市民の生活や産業に必要なさまざまな物資を国外に頼っていることから、資源をむだにはできません。

参考：総務省「日本の統計 第6章 農林水産業」<http://stat.go.jp/data/nihon/>
資源エネルギー庁HP <http://www.enecho.meti.go.jp>

ごみ減量・リサイクルが必要な理由 その4 〜〜地球規模での環境負荷〜〜

外国から輸入しているさまざまな物資。これらははじめからその姿で自然界に存在しているわけではありません。穀物の生産には水を必要とし、肉類は家畜に水と飼料を与えることで得られます。穀物1kgには約1tの水が、食肉1kgには約17kgの飼料がその生産に必要なといわれています。

鉱物資源や石油は地中から掘り出されます。そのために森林を伐採し、道路を作り、機械を動かし、エネルギーを消費し、いらぬものは廃棄されます。生産国のほとんどは日本ほど環境規制が厳しくはありません。

日本に入ってくる物資の向こう側には、その約4倍の見えない物資が消費され、廃棄されているといわれています。そのことが生産国の環境にどれほどの負荷を与えているかを、私たちは想像することさえしません。ほんの50年前、日本は貧しい国でした。物がなく、切り詰めた生活を、豊かな将来を夢見ていました。今、その豊かな暮らしは、何が支えているのでしょうか？

こんな言葉があります。「わたしたちは祖先から大地を受け継ぐのではない。私たちは私たちの子どもたちから大地を借り受けているのだ。」

1日100gのごみ減量。ほんの100gですが、毎日のこととなれば1か月で約3kg、1年で約36kg、3人家族なら1年で100kgをかるく超えてしまいます。日々の暮らしを見つめ直して、次の世代に今よりも良い環境を残したいものです。

今年の夏は電力危機が

首都圏の消費電力の4割以上を供給する東京電力の原子力発電所がこの4月にも全基停止するかもしれません。全17基のうち9基がいわゆるトラブル隠しに関連して、残り8基は漏えい率検査や定期検査によるものです。必要な電力は休止していた火力発電所を再稼動して確保される見込みですが、政府や東京電力では節電の呼びかけを強化する方針です（資源エネルギー庁HP）。

火力発電所の稼働は二酸化炭素排出量を増加させるので、ライフスタイルの見直しはエネルギー問題や地球温暖化にとっても切実です。夏にネクタイを締め、ジャケットを着るビジネススタイルが日本に合うのかなど、これまで当たり前とされていたことも見直す必要がありそうな今年のエネルギー事情です。



生ごみ処理機の購入費補助金 申請受付中！！

家庭から出される生ごみを減量・資源化する「生ごみ処理機」の購入に補助金を交付しています。電気式・土中微生物で分解するコンポスター・EM容器が補助対象です。お問い合わせはリサイクル推進課まで。

これだけご協力いただきました

古着・古布の回収実績

平成14年度 回収実績（単位:kg）			
地区名	春季	秋季	合計
松井	4,796	5,836	10,632
柳瀬	3,116	4,042	7,158
所沢	4,743	4,661	9,404
新所沢	6,800	6,475	13,275
新所沢東	2,942	1,753	4,695
並木	3,947	4,962	8,909
富岡	4,345	4,561	8,906
小手指	9,069	8,729	17,798
吾妻	8,112	5,723	13,835
山口	6,531	6,946	13,477
三ヶ島	7,000	6,940	13,940
合計	61,521	60,778	122,299

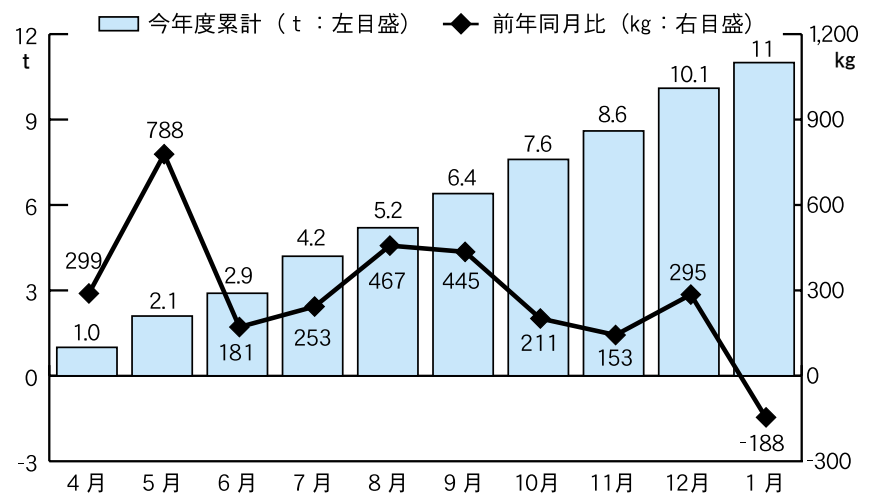
布類は、海外で古着として販売されたり、工場用雑巾や断熱材などへの再加工が主な資源化方法でしたが、今は収集量に比べて利用される量が少なく、資源化が非常に厳しい状態が続いています。

こうしたことから市では、回収に出さずに自宅での使いまわしやフリーマーケット、リサイクルショップなどの利用を呼びかけてきました。平成14年度の実績は昨年度と比べて約28%の減少となりましたが、回収量の減少はリサイクルに対する意識が低くなったわけではなく、現状を理解していただけた結果だと考えています。

布類の有効利用を進める新しい試みとして、古着の交換をする「もったいない市（いち）」を今年度初めて実施しました。サイズが合わなくて着なくなったものなど、回収に出すには“ちょっともったいない”衣類はこちらをご利用ください。吾妻地区のみの実施でしたが非常に好評で、今後は会場を増やす予定です。これからの広報などをご覧ください。

もう一つは古着を使っておもちゃなどを作る「リフォーム講座」です。4回開催していずれも予定人数がすぐに埋まるほどの大盛況！これからは（仮称）リサイクル館を中心に開催する予定です。アイデアやボランティアスタッフも募集していますので、リサイクル推進課までお問い合わせください。

廃食用油の回収実績

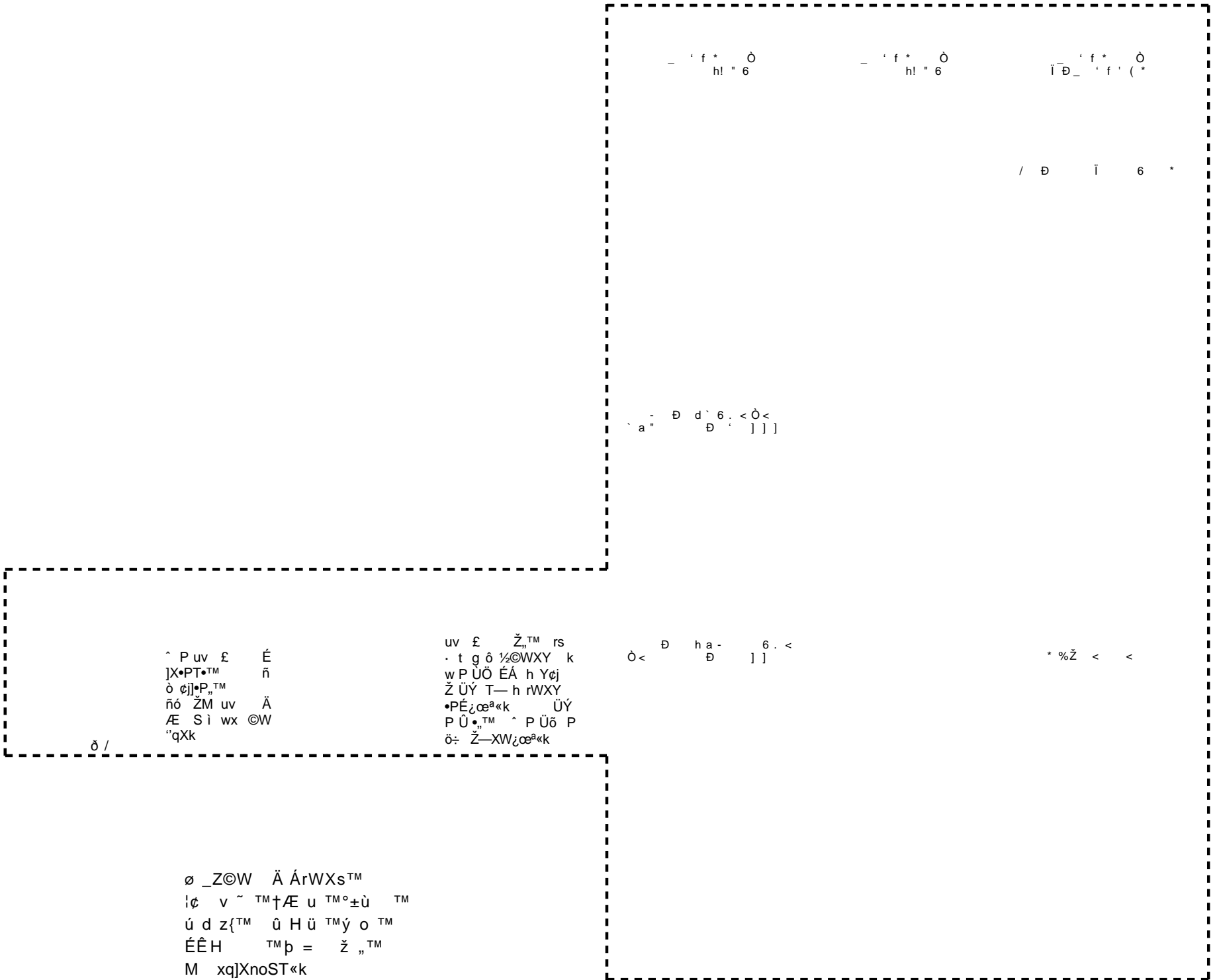


グラフは今年度の月ごとの累計回収量（柱状グラフ）と月別回収量の前年同月比（折れ線グラフ）です。回収量は順調に増加し、12月時点で既に昨年度実績（9.8t）を上回ることができました。各月でも昨年を上回り、平成13年度から始めた事業が定着しつつあると考えています。

リサイクル推進課では回収拠点を巡回して状況を確認していますが、量以外で昨年と異なる点に気づきました。それは“箱”です。贈答品が箱ごと出されていることが少なからずありましたが、今年は箱の数がぐっと減ったように思います。賞味期限の切れたものがまとめて出されているのを見て「捨てられずに困っていたのかなあ」と、お役に立てて良かったと感じる担当者です。贈った方には申し訳ありませんが、台所の隅で忘れられた油缶があれば遠慮せずにお出してください。

回収された油は再生業者に売り払われ、塗料やさまざまな油脂製品へと資源化されます。その会社は軽油の代替燃料も作っており、市はそれを購入しています。ごみ収集車2台と清掃事業所内の運搬車両1台で、12月までに合計6,200ℓを消費しました。この代替燃料を使うと排気ガス中に硫黄酸化物が含まれず、黒煙や窒素酸化物、二酸化炭素も軽油使用時より減少します。自動車の出すごみもちょっぴり減量できました。

平成15年度もこれまでと変更なく、市内東側の地区は第1土曜日、西側の地区は第3土曜日が回収日となりますので、お近くの公共施設へお持ちください。



œP•Æ

Ä ¶ š | Öž P . t ' Á ¶

ÄÆ v ÆEu

アルミ缶・スチールびん (リターナブルびん)



段ボール



●衣類
 ●文房具等
 へ再生利用

古繊維問屋 (選別)

●古着として海外へ輸出
 ●工場用品として再利用
 ●反毛(綿に戻して)

